



目 次

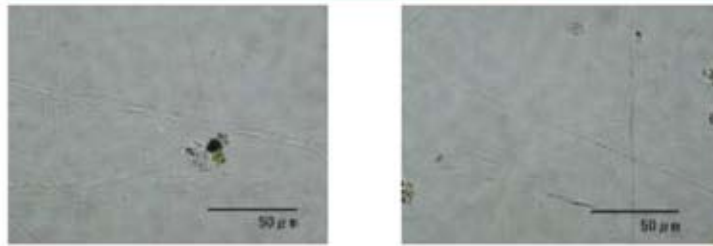
プランクトン確認種

ニッチア属の数種	・・・ 1p
キートケロス属の数種	・・・ 1p
<i>Chaetoceros sociale</i>	・・・ 2p
カイアシ類(ノープリウス幼生)	・・・ 2p
パラカラヌス科(コペポデイド幼生)	・ 3P
ユウテルピナ属(コペポデイド幼生)	・ 3P

フランクton図鑑

●種 名● ニッチア属

●写 真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分 類● 珧藻綱 羽状目 ニッチア科

●解 説●

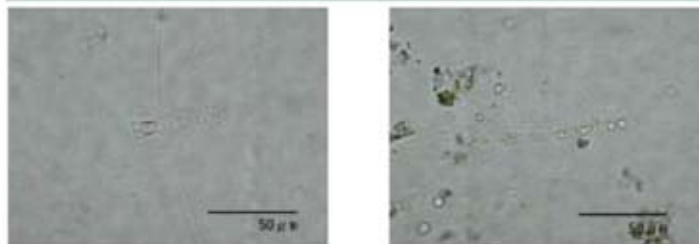
珧藻綱は、内陸の湖沼や河川のような淡水域に生息している種も少なくないが、塩分が20～30‰である海洋の沿岸で、春から秋にかけて適度の水温と陽光による光合成によって繁殖するものが非常に多い。単細胞で、細胞膜はペクチン質を基本とした、珧酸化合物を含み、いずれも被膜を形成している。被膜はあたかも弁当箱の蓋と実のようになっていて、その中に1個の核と葉緑素、葉黄素、珧藻素などの色素を含む有色体を有する。したがって生態時は黄色から黄褐色また黄緑色を呈する。（珧藻綱の解説）
この科の縦溝は通常蓋殻縁に近い竜骨上にあるが、なかにはこれが頂軸上にあるものがある。縦溝は蓋殻の一端から他端に向かって縁に沿って走るが、通常は翼管上には持ち上げられていない。（ニッチア科の解説）

出典：日本産海洋プランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクton図鑑

●種 名● キートケロス属

●写 真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分 類● 珧藻綱 円心目 キートケロス科

●解 説●

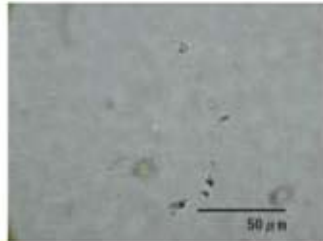
円心目の各種の蓋殻の構造の中心は、通常“点”である。増大胞子の形成は、雌雄の別が明らかな卵生殖による。（円心目の解説）
キートケロス科に属する物は100種以上もある。単体性の種は少なく、多くは連鎖状の群体をつくる。（キートケロス科の解説）

出典：日本産海洋プランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクトン図鑑

●種 名● Chaetoceros sociale

●写 真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分 類● 珪藻綱 円心目 キートケロス科

●解 説●

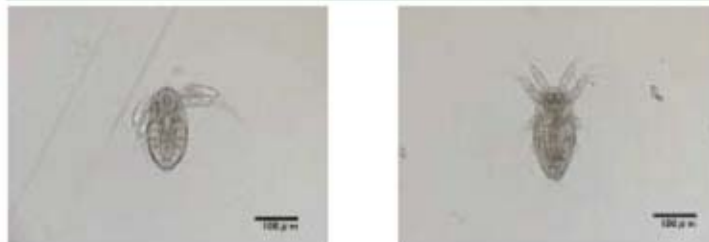
群体は比較的短く、湾曲しているが、特殊な長い刺毛と粘液質によって多数の細胞が集合して不定形の球体群集をつくる。単独の細胞の蓋殻の頂軸の長さは4-15 μ mで、細胞間隙は適度に広がった長形で、中央部は少し狭くなっている。蓋殻はほとんど平坦である。本種は北半球の沿岸にあって、春期に多く見られ、多数の細胞が密集して群体を作る。(Chaetoceros socialeの解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクトン図鑑

●種 名● カイアシ亜綱（ノープリウス幼生）

●写 真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分 類● アゴアシ綱カイアシ亜綱の一種 ノープリウス幼生（最も初期の幼生）

●解 説●

カイアシ亜綱は10目8000種以上からなり、体長は通常0.3-10mm程度であるが、寄生性のものには30cmにも達する物がある。海洋、淡水域において自由生活を営むほか、魚類及び無脊椎動物に寄生あるいは片利共生するものも多い。(カイアシ亜綱の解説)

卵から孵った直後の甲殻類の最も基本的な幼生である。通常6期あり、脱皮をして成長する。(ノープリウス幼生の解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説（東海大学出版会）

フランクton図鑑

●種 名● パラカラヌス科 (コペポディド幼生)

●写 真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分 類● アゴアシ綱 カラヌス目 パラカラヌス科 コペポディド幼生 (二次幼生)

0.4-1.5mmと小型で、前体部は楕円形または卵円形で前端はまるく、後端もまるい。1対の吻糸をもつ。頭部と第1胸節は融合、第4と第5胸節は分離または融合する。雄の頭部背面に瘤上の突起 (背瘤) をもつことがある。(パラカラヌス科の解説)

●解 説●

通常、ノープリウス幼生が6回脱皮をすると、コペポディド幼体に変態する。さらに5回の脱皮を繰り返して成長し、最終的に成体になる。幼体は基本的に成体と類似した形態を持つが、通常、体節、付属肢の節や刺毛・棘、生殖器官が未完成である。(コペポディド幼生の解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説 (東海大学出版会)

フランクton図鑑

●種 名● ユウテルピナ属 (コペポディド幼生)

●写 真●



※写真は調査時に採取したサンプルを顕微鏡で撮影した物です。

●分 類● アゴアシ綱 ソコミジンコ目 カワリソコミジンコ科 コペポディド幼生

海産、淡水産、陸生を合わせて約3300種が知られている。海産のものの大部分は底生性であり、一部のものが浮遊性、寄生性、葉上性である。また、流れ藻や流木などの漂着物に生息する物もいる。(ソコミジンコ目の解説)

●解 説●

1属1種。第2触角外肢は1節。第1胸肢は内・外肢とも2節、内肢は捕捉型ではない。第2胸肢内肢は雌は3節、雄は2節。第3,4胸肢内肢は3節。(ユウテルピナ科の解説)

出典：日本産海洋プランクトン検索図説 (東海大学出版会)